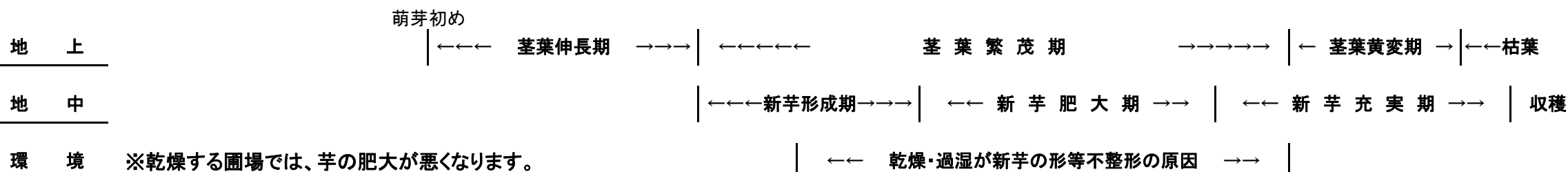


山の芋の作り方

株式会社佐藤政行種苗

生育環境



月別	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	←←←←← 乾燥気味 →→→→→						←←←←← 適湿 →→→→→																	
主要作業	●種芋準備	●消毒	●催芽	●土改材・耕起	●施肥・耕起	●畦立て・マルチ	●植え付け	●除草剤散布	●ネット張り	●蔓の誘引と除けつ	●6月までにネット頂部へ	●薬剤散布(殺虫・殺菌)	●支柱の補強(風対策)	●除草剤散布	●追肥	●薬剤散布(殺虫・殺菌)	●追肥	●薬剤散布(殺虫・殺菌)	●薬剤散布(殺虫・殺菌)	●薬剤散布(殺虫・殺菌)	●薬剤散布(殺虫・殺菌)	●収穫		

作業内容

種いも (1a当り25kg) ※種いも選別は出荷前に行う。

- 個体重50g~100gの形状丸型で表皮のなめらかなものを選ぶ。

畑の準備

- 肥沃な排水の良いところを選ぶ。
- 土壌線虫や病害の発生の多いところは避ける。

施肥

- 吸収根は表層に多く分布することから、元肥は全面散布し、全面耕起します。1a当たりの施肥量は、成分量で窒素・リン酸・カリとも2.5kg前後とします。堆肥は完熟したものを使用し、1a当たりの投入量は200kgとします。
- 土壌改良資材として、シェルカンネオ又は若土20kg、ヨウリン5kgを1aに施用します。

畦立て・マルチ

- 図に従って畦立てマルチを行う。マルチは地温上昇、水分保持、雑草防止のため植付7日前には終わり地温を高めておく。穴あきマルチ(0.02X95X200)。
- 地温が低いと萌芽が悪く、種芋が腐る可能性があります。

管理

- 支柱を各畝に1条直立に立て、高さ2m位にネットを張る。
- 除草剤は植付け直後に土壌処理剤を全面使用し、生育中は茎葉処理剤を畦間散布する。
- 追肥は7月中旬~8月上旬にかけ、2回ほど行う。

施肥例 (1a当り)

肥料名	保証成分%				施肥量 kg(1a当り)	備考
	窒素	リン酸	加里	苦土		
たい肥					200	完熟したものを使用
スーパーユーキ30号	10	10	10		25	三要素の他ホウ素を含む
ユキパー(追肥)	4.5	3.7	1.6		12.5	魚かすが原料で即効性。食味・糖度向上
シェルカンネオ又は若土					20	カルシウム補給・土改材
Gセブソ				17	2	苦土補給(元肥)
ヨウリン		20		12	5	リン酸補給。
鮮緑				15		葉面散布剤。3~4回散布・500倍で使用
有機バイオ液肥	0.96	0.07	0.94			葉面散布剤。1000~1500倍で使用